

S-424

ポスター

日産婦誌51巻臨時増刊

P-129 唾液中エストラジオール 17- $\beta$  酵素免疫法による測定の意義

旭川医科大学、科薬(株)\*

高岡康男、深井義久\*、堀川道晴、玉手健一、  
千石一雄、石川睦男

[目的]卵巣機能評価法としての血清中エストラジオール(E2)濃度測定は、臨床上頻用されているが、日内変動、周期内変動を有し、頻回の測定が推奨される。今回我々は唾液を検体とした、唾液中エストラジオール 17- $\beta$  (E2)測定法を確立し、さらに、限外濾過一RIA 法にて測定した血清中フリーE2 濃度との比較にて唾液中 E2 測定法の臨床的有用性について検討した。[方法]対象は規則的月経周期を有する健常女性 10 名及び不妊症患者 55 名とし、これらより得た唾液及び血清を検体とした。唾液中 E2 及び血清中 E2 値は EIA 法にて測定した。血清中フリーE2 値測定は、まず限外濾過操作過程における E2 の回収率を求めるために、PBS で作製した標準 E2 を用いて限外濾過を行い、限外濾過前後の E2 値を EIA で測定し、回収率を算出した。次に、血清を限外濾過し、得られた濾液を RIA 法で測定し、得られた値と回収率より血中フリーE2 値を算定した。[成績]1.唾液中 E2 測定法は、測定限界 1.5pg/ml と高い測定感度を有し、相関係数 0.781と血清中 E2 濃度とよく相関した。2.自然性周期においては唾液中 E2 は、8 症例について排卵前期及び黄体期中期に、各々 7.1 ± 3.1(3.1 ~ 12)pg/ml 及び 3.4 ± 1.8(1.9 ~ 6.6)pg/ml のピークを認めた。3.唾液中 E2 と血中フリーE2 の間には  $r=0.828$  と高い相関性が認められた。[結論]唾液中 E2 測定法は、その高い測定感度により、自然排卵周期における排卵前期及び黄体期中期のピークを測定しうることが確認され、また唾液中 E2 が血中フリーE2 を反映することを明らかにした。

P-130 採卵直前のプロラクチン推移と体外受精妊娠率: プロラクチン日内変動の重要性

杏林大

菅原新博、神野正雄、星合敏久、尾崎恒男、  
小菅浩章、中村幸雄

[目的] 採卵直前の血清PRL値の推移は体外受精妊娠率と強く関連し、PRL日内変動の重要性を見いだした。[方法] 40才未満で正常排卵周期をもつ体外受精54症例を対象とした。卵巣刺激はlong法を行い、主卵胞径 16 ~ 18 mm の日の 8:30 ~ 10:30 p.m. に hCG を投与し、36 時間後に採卵した。血清PRL値を、採卵日の 6 a.m.(朝値)と麻酔直前(直前値)に測定し、直前値/朝値を変化率と定義した。16症例では日内変動の検討のため、採卵前日の 6 a.m., 10 p.m., 採卵日の 2 a.m. の 3 回の PRL 測定を追加した。[結果] 繼続妊娠例(出産例と妊娠14週以上、16 例)では、血清 PRL 値(ng/ml)は朝値  $34.3 \pm 6.3$  (SE)から直前値  $19.1 \pm 2.6$  へと有意に低下したが( $P<0.01$ , t-test)、非妊娠例(15例)では、朝値  $26.6 \pm 4.4$ , 直前値  $25.0 \pm 4.1$  と、有意に変化しなかった。変化率は、継続妊娠例で  $0.70 \pm 0.08$ 、非妊娠例で  $1.03 \pm 0.13$  と、継続妊娠例で有意に低かった( $P<0.05$ )。日内変動は、採卵前日 6 a.m., 10 p.m., 採卵日 2 a.m., 6 a.m., 麻酔直前の PRL 値が、継続妊娠例(7例)で  $16.3 \pm 4.9$ ,  $20.0 \pm 7.4$ ,  $28.5 \pm 8.0$ ,  $22.4 \pm 8.6$ ,  $18.3 \pm 5.5$ , 非妊娠例(9例)で  $23.0 \pm 2.6$ ,  $29.9 \pm 3.4$ ,  $29.6 \pm 3.9$ ,  $26.1 \pm 5.2$ ,  $28.0 \pm 5.6$  と、継続妊娠例で睡眠時高値がより明らかだった。良好胚数と採卵あたり継続妊娠率は、変化率  $<0.73$  のとき(28例)  $3.6 \pm 0.7$ , 43%,  $\geq 0.73$  のとき(26 例)  $2.3 \pm 0.4$ , 15% と、変化率  $<0.73$  のとき継続妊娠率が有意に高かった( $P<0.05$ ,  $\chi^2$  検定)。[結論] 採卵日早朝から麻酔直前までの 2 ~ 3 時間で血清PRL値が 0.73 倍未満に低下するときには高い妊娠率が得られる。PRL の日内変動(睡眠時高値)が卵成熟に重要と示唆された。